

《芽ばえ賞》

「ひまわりじいちゃんから学んだこと」

有田市立文成中学校 3年

たぶせ もえ
田伏 萌 さん

私が住んでいる町は、とても田舎で、高齢者がたくさん住んでいます。見たすかぎり田んぼ、みかん畑などです。毎年毎年、そこに住むおじいちゃん・おばあちゃんは心を込めて作物を育てています。私はそんなおじいちゃん・おばあちゃんから学んだことを伝えたいと思います。

私がまだ小学生の時、二人のおじいちゃんと出会いました。一人目のおじいちゃんは、毎日夫婦で仲よく田んぼで米をつくっている人です。私は友達の家へ向かう途中に、そのおじいちゃんと出会いました。おじいちゃんに、

「ちよつと手伝ってくれへんか？」と、

言われました。私はもちろんオッケーをだし「友達もよんでくる」といい、その子も連れてきて、一緒に田んぼに入って手伝いをしました。私とおじいちゃんは初対面なのに、そんな事を忘れるくらい仲よしになりました。私はその時、私の住む町の温かさに気がつきました。それから、出会えば、あいさつをする仲になりました。でも、今はもうあいさつをしなくなりました。おじいちゃんが私のことも田んぼでのことも認知症で忘れてしまったからです。でも、このおじいちゃんからもらった「あたたかさ」を大切にしようと思いました。

二人目のおじいちゃんは、今でもおしゃべりをするぐらい仲よしのおじいちゃんです。私は、その人のことを「ひまわりじいちゃん」と呼んでいます。なぜかという、名前を知らないからです。おじいちゃんにもらったひまわりがキレイだったからひまわりじいちゃんと私は呼んでいます。私とひまわりじいちゃんの会話は、私がまだ転校してきて間もない日でした。私はまだ前の学校や友達が恋しくて、数日は悲しかっ

たです。そんなときひまわりじいちゃんに出会いました。登下校の時、ちようどひまわりじいちゃんの仕事の時間でよく会います。初めは、恥ずかしくて、あいさつもできませんでした。でも、ひまわりじいちゃんが毎日毎日話しかけてくれました。比かく的登校時間が遅かった私は一人で学校へ行っていました。だからなのかもしれませんが、ひまわりじいちゃんと出会い、話もできるようになりました。ひまわりじいちゃんいわく、最近の子は、あいさつもしてくれないし、あいさつをかえしてくれなくてさみしかった。と言っていました。だから、私に毎日話しかけてくれてたんだ。と分かりました。最初は米を作ってたじいちゃんが、私が小五ぐらいの時に、畑をみかん畑に変えました。それからひまわりじいちゃんが、春には、とれたての苺をくれ、ブルーベリーやとうもろこし。夏には、とつてもキレイな、ひまわりをくれました。その花をもらってから、私の中でおじいちゃんは、ひまわりじいちゃんです。私がどんなに悩んでいても、太陽のような笑顔とぬくもりで私の悩みを聞いてくれました。ひまわりじいちゃんとお会って、私の周りはいっきに明るくなって、毎日が楽しかったです。ひまわりじいちゃんとしやべりだと止まらないぐらい、話しすぎて、よく親におられました。私は、ひまわりじいちゃんに三つのことを教えてもらいました。一つ目は、高齢者隊達の心中です。おじいちゃんからたくさんの心中を聞きました。その中には、さみしいやこどくといった悲しいことばもありました。でも私と話してるときは、とても楽しいよ。と言ってくれました。私は、もっと若い人が高齢者に声をかけてあげるべきだと思いました。一人でさみしい思いをしなくてもいいように何かしてあげるべきだと思いました。二つ目は、おじいちゃんたちの優しさです。大切な作物なのにもプレゼントしてくれるじいちゃんに優しさをかんじました。優しくされると私もいい気分で、だれかに優しくしてあげたいな。と思えるようになりました。三つ目は、笑っていることのよさです。私は、あまり常に笑う子ではないですが、ひまわりじいちゃんはいつも笑っています。私もまねてみると笑っているだけで、いい事が寄ってくる気がしました。自分が笑っていると友達も笑ってくれる笑顔の輪ができることを教えてもらいました。

私は、こんなおじいちゃんたちがいれば、毎日楽しくて毎日たくさん
のことを学べて、いいのになと思いました。これからも、素てきなおじ
いちゃんたちに出会えますように。